

日本細菌学会 関東支部ニュース

第16号

日本細菌学会関東支部支部長就任のご挨拶

昭和大学医学部
細菌学教室 主任教授
島村 忠勝

平成3年9月11日、国立予防衛生研究所所長室において徳永支部長のもと、中村、島田両幹事の立会いで選挙細則に基づいた籤による次期支部長選出が行われました。多数の先輩の方々がおられるのにもかかわらず、浅学非才かつ若輩の私が選出されましたことは私にとりまして青天の霹靂でありました。

私は関東支部評議員をすでに連続3期務めさせていただき、今期、徳永支部長のもとでは支部ニュースの編集を担当いたしました。本部には今年から評議員として参加させていただき、日本細菌学雑誌の編集委員の末席を汚しております。このように最近までは関東支部がおもな活動の場でありました。

以前、関東支部会員の支部学会離れを私自身憂慮し、関東支部について私見を支部ニュースで述べたことがあります。現在では支部活動が活性化され、着実に成果が上がってきているように思います。この活性化された状態を維持し、さらに前進させていくことが次期評議員会に課せられた使命であると痛感しております。新評議員の方々、今までにない高い投票率に支えられた選挙によって選出され、支部活動に関しては並々ならぬ熱意をおもちのことと心強く思っています。さらに支部長推薦の評議員の方々にも参加していただいておりますので、共に支部のために努力したいと存じます。支部活動につきま



しては、関東支部ニュースの継続発行は勿論のこと、支部総会、支部評議員会および本部との関係などをも含めた「支部の在り方」に関する諸問題の解決へ向けて、支部会員を主体に展開することを切望しております。

終りにあたり支部の活性化に御尽力いただきました徳永支部長ならびに現評議員の方々に心から御礼を申し上げますとともに、新評議員の方々および会員の皆様のご御指導と御協力を切にお願いする次第です。



支部長退任に際しての謝辞

徳 永 徹

1988年10月、木村貞夫先生の後任として、関東支部の支部長に選出されて以来、既に3年が経過しました。関東支部も一つの大きな転換期にあって、問題も種々多かったと思いますが、来る11月の自治医大での支部総会をもって、3年の任期を一応無事に終えることができそうで、安堵しています。

この間私としては、特筆して感謝すべき方があります。その第一は、評議員の方々で、皆さん大変熱心に、関東支部の活性化のために心を砕いて下さいました。今後多くの若い細菌学者に意欲的に学会活動に参加してもらうために、学術集会のあり方、評議員会のあり方等の改革方策をめぐり、毎回評議員会は活発な議論と熱気に溢れていました。私はただ皆さんの熱意とアイデアの上に座っているだけでしたが、春の総会の日程がこれまでの1日から2日間へと延長され、しかも参加者が場内に溢れるほどであったことや、広く評議員に人材を迎えるため支部会則を改めるなど、いくつもの改革を実行することができました。ここに再度評議員の方々(新井俊彦、五十嵐英夫、池田達夫、岡村登、金森政人、川上正也、北野繁雄、河野恵、笹川千尋、島村忠勝、高橋昌也、鶴純明、久恒和仁、三上襄、光岡知足の諸氏)に謝意を表したいと思います。

更に幸いであったことは、3年間、春秋の総会長に大変恵まれたことです。河西信彦、橋本一、渡辺武彦、山口英世、河野恵、中野昌康の各総会長は、それぞれ斬新なアイデアと周到な準備をもって総会を開催して下さい、学会の活性化に大きく貢献して下さいました。

第三には、中村明子と島田俊雄の両幹事が献身的に関東支部の事務を遂行し、支部長を助けてくれたことです。手弁当で頑張った二人の陰ながらの貢献は、評議員も等しく認めるところでした。

もう一つ、支部会費を値上げし、今期の支部活動を事前に援けて下さった木村貞夫前支部長にもお礼を申し上げたいと思います。

特定の方々のお名前を挙げましたが、このほか学術総会で講演や討論やポスターなどで活躍して下さい下さった方々が、学会にとってもっとも本来的な意味で貢献して下さい下さったことは明らかです。今後とも大いに頑張る、学問の場としての学会を活性化していただきたいと思います。

最後に、新しい支部規約によって新支部長に島村忠勝教授が選ばれましたが、この新支部長のもと、新評議員の方々力が併せて、関東支部の一層の発展、細菌学の一層の隆盛のため、御尽力くださることを念願してやみません。

小委員会の活動報告

『将来計画小委員会を振り返り』

委員長 河野 恵

徳永関東支部長のもとでの評議員会活動を振り返ってみると、その討論のほとんどは関東支部の活性化といったことについてなされたように思う。関東地区在住の細菌学会会員に細菌学領域の学術の進歩を如何にフィードバックするかということである。それを具体化するための主たる事業として学術集会(日

本細菌学会関東支部総会)の開催がある。また、このような事業を推進する原動力として日本細菌学会関東支部評議員会があり、支部長・評議員・幹事などの役員が置かれている。

将来計画小委員では学術集会の活性化と役員活動の活性化をどのように具体化するかが討議の焦点であった。学術集会の活性化は学術小委員会の主たるテーマでもあった。したがって将来計画小委員会は役員活動の在り方を主に討議した。関東支部活性化を合言

策に小委員会での討議を重ね、さらに、評議員会の全体会議で討議の結果、学術集会については関東支部総会を(1)年2回開催する。

(2)シンポジウムの他に一般演題発表も行う。というように改められた。また、役員活動活性化のためとして、(1)評議員の任期(3年)は連続2期までとし、3選を認めない。(2)評議員定数を、選挙による選出で14名、支部長の指名による7名と21名にできるように日本細菌学会関東支部会規則を改められた。このことについては関東支部ニュース第15号に「今期(平成1-3年期)関東支部の活性化を回顧して」に城西大学久恒和仁教授が詳しく述べられている。

私が将来計画小委員長をつとめた間、委員として協力していただいた金森政人(杏林大)、笹川千尋(医科研)、高橋晶巳(聖マリアンナ医大)、三上豊(千葉大)、光岡知足(日獣大)、各委員の先生方、更に臨時に参加をお願いして貴重なお意見等を聞かせていただいた山口英世(帝京大)、辯野(理研)の各先生にも御礼申し上げます。また、第65回関東支部総会を主催させていただき何とか活性化の一端を具体化する機会を与えていただいたことをも含め、ご協力いただいた関係諸先生ならびに会員の皆様に御礼申し上げます。

「学術集会委員会を振り返って」

川上正也

「関東支部会の総会はマンネリ化してないだろうか」、「若い人の発言が少なくなった」、「このままでは会員数が減っていくのではないか」などの声が聞かれる中で、従来の学術集会委員会でも、総会をどのように盛り上げるかが大きな課題だった。そのために会員のアンケート調査を行うなど、色々の工夫がされてきた。しかし、その解決策としてはより良い学会を開催して下さる総会長を選ぶことに重点があったようだ。前期(昭和61年~63年)の学術集会委員会では、さらに具体的な方法を考える必要があるとの結論にいたり、その名称を学術集会・将来計画委員会と改め、学

術集会の活性化とその具体策について長時間議論を重ねた。若者を引き付けるシンポジウム課題とは、ポスターの使い方、座長の役目など色々な角度から話がとびだした。しかし評議員会の中で盛り上がるまでには至らなかった。

平成元年~3年期の関東支部評議員会は、徳永支部長を迎えていっそう活発になった。学術集会委員会は、前期の委員会の後を受けて学術集会のあり方を議論した。ところが、関東支部評議員会の中に新たに将来計画委員会がつくられたので、その成果を見守りながら経過したとあってよいだろう。そして、将来計画委員会と合同会議が開かれそれに参加した。それを通して、若い研究者の参加、討議の活発化のためにはどのような開催法が良いかについて検討を重ねた。実に様々な提案が出されたので、その結論は一様ではなかったが、河野委員長によっていくつもの具体案が纏まった。しかし、なによりも嬉しかったのは、春期、秋期の総会長さんたちが、これらの委員会の論議を汲み取って、学会の活性化のために様々な工夫をしてくださったことである。座長の持ち時間を作って討議を盛り上げる試み、ポスターと合わせた口頭発表、グループ討議などなど。

今「関東支部会は面白くなった」、「若い人の活発な議論が出てきた」などと言う声少し聞かれるようになった。もう一步の向上を目指して、今後も支部評議員会で、口角泡を飛ばして議論していただくことが期待される。



「支部ニュース活動を振り返って」

委員長 島 村 忠 勝

今期徳永支部長のご指名を受け、池田達夫、岡村登、鶴純明の各評議員とともに支部ニュース小委員会をスタートさせました。編集の都合上、島田俊雄幹事にも参加していただくことにしました。1984年に創刊され、前期には内容も充実し、継続発行されてきた支部ニュースをいかに維持し、発展させるかを考え編集にあたることにしました。

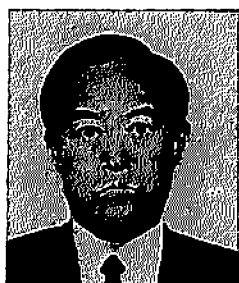
前向きな姿勢をとる方針で、新たに会員相互の意見交換を目的としたフォーラム欄を設けることにしました。フォーラム欄を新設したものの、積極的に意見を寄せて下さる会員は皆無に等しく毎号編集後記で投稿をお願いしておりますように、原稿集めにはたいへん苦劳いたしました。しかし、依頼を受けた会員の方々は心よく応じて投稿して下さい非常に助かりました。

支部ニュースの発行は年2回で、10号から16号まで7回刊行することができ、予定どおりに終り責任を果たすことが出来ました。支部ニュースの発送については経費削減のために春秋の総会のプログラム発送に便乗して同封させていただきました。

支部ニュースに関して改善すべき点は多々あると思いますが、今後、支部ニュースが益益充実したものになることを期待しています。末筆になりましたが、支部ニュース小委員会委員、幹事の方々ならびに、ご執筆くださった多数の会員の方々に、ここで厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



平成4年～6年期支部評議員・幹事の紹介



新井俊彦（明治薬科大学、微生物学教室、教授）

1. サルモネラの血清型特異的宿主認識病原機構。
2. 細胞増殖調節機構とその抑制物質。



池田達夫（帝京大学医学部、細菌学教室、講師）

日和見感染の発症機序、BRMによる感染防御機構。



五十嵐英夫（都衛研、微生物部、副参事研究員）

黄色ブドウ球菌が産生するエンテロトキシン等の毒素に関する研究。



井上松久（北里大学医学部、微生物学教授）

薬剤耐性の遺伝・生化学、基礎からみた化学療法と感染症。



伊豫部志津子（群馬大学医学部，薬剤耐性菌実験施設，助教）
緑膿菌を対象とした臨床由来薬剤耐性菌の研究。



北野繁雄（明海大学歯学部，口腔微生物学講座，教授）
口腔微生物に対する歯周組織の宿主応答性。



内山竹彦（東京女子医大，微生物学教室，教授）
免疫学，細菌学，特に細菌毒素と免疫系組織の応答性と病原性の解析。



黒坂公生（東京慈恵会医科大学，臨床検査医学教室，教授）
ブドウ球菌ならびにその感染症。



岡村 登（東京医科歯科大学医学部，保健衛生学科，教授）
腸管系病原菌の病原性と宿主の感染防御機構。



河野 恵（東京薬科大学，第2微生物学教室，教授）
「薬剤耐性とくにブドウ球菌の多剤耐性について」ほか。



奥田克爾（東京歯科大学，微生物学講座，教授）
歯周病原性菌の病原因子の解明。



笹川千尋（東京大学医科学研究所，細菌研究部，助教）
病原細菌の分子遺伝学的研究：赤痢菌の宿主上皮細胞侵入と拡散の分子機構。



金森政人（杏林大学，保健学部，臨床微生物学教室，教授）
1. エロモナスの病原性。
2. バクテロイデスのβ-ラクタマーゼプラスミド。



島田俊雄（国立予防衛生研究所，細菌第一室長）
ビブリオ科細菌の分類およびその腸管病原性に関する研究。



竹田多恵（国立小児病院小児医療研究センター、感染症研究部、部長）
細菌感染症における毒素の役割。



三上 豊（千葉大学真核微生物研究センター、助教授）
1. 抗真菌剤の作用及び併用療法に関する研究。
2. 病原性ノカルジアの産生する生物活性物質に関する研究。



植原宏文（北里研究所、研究部、細菌一室、室長）
サルモネラなどの病原因子、ワクチン開発、遺伝子診断。



光岡知足（日本獣医畜産大学、教授）
1. 腸内フローラの役割。
2. 嫌気性菌の分類学的研究。



鶴 純明（防衛医科大学校、細菌学教室、助教授）
感染免疫学（特にG-CSF、M-CSFなどのサイトカインの感染防御能）。

幹 事



戸田真佐子（昭和大学医学部、細菌学教室、助教授）
カテキンの生体防御機構に関する研究。



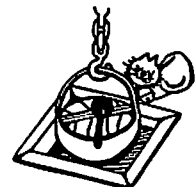
野沢龍嗣（静岡県立大学食品栄養科学部、微生物学研究室、教授）
食細胞カルシウム結合蛋白の機能とその発現制御。



江川 清（昭和大学薬学部、微生物薬品化学教室、講師）
リポ多糖の構造と活性。



辨野義巳（理化学研究所、微生物系統保存施設、微生物分類室、室長）
嫌気性菌とくにClostridium、Lactobacillusに関する分類学的研究。



議 事 録

● 新旧合同評議員会

日 時：平成3年10月5日（土）
14時～17時

場 所：国立予防衛生研究所

出席者：新井俊彦，五十嵐英夫，池田達夫，
井上松久，岡村登，奥田克爾，金森
政人，川上正也，黒坂公生，河野恵，
笹川千尋，島田俊雄，島村忠勝，檀
原宏文，中野昌康（第66回 支部総
会長），徳永徹（支部長），中村明子
（幹事）。

欠席者：北野繁雄，高橋昌巳，鶴純明，久恒
和仁，三上襄，光岡知足。

議題に入る前に徳永支部長より，新支部長
選出の経過報告があり，次いで新旧評議員全
員の自己紹介がなされた。

議題：

1. 第66回支部総会準備状況

中野総会長より準備状況について最終説明
がなされた（別紙）。

T. K. Eisenstein 教授の特別講演の演題名
が次のように変更された。

Inflammation, protection and
immunosuppression induced by
attenuated Salmonella.

2. 選挙管理委員会報告

五十嵐委員長から別紙の通り，開票結果お
よび会計決算報告がなされた。なお，支部長
選出に伴い1名の欠員が生じたので，次点の
三上襄氏が繰り上げ当選となった。

3. 各小委員会報告

各小委員会活動報告は支部ニュースに掲載
する予定である。

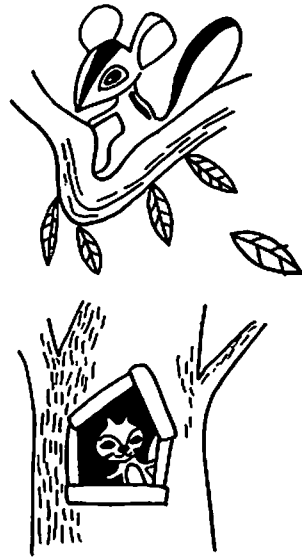
4. 平成3年度決算報告，平成4年度予算案 審議について

平成3年度決算報告書（別紙）について支部
長より報告があった。なお，平成3年度収支
決算は平成3年10月5日に五十嵐，笹川両会
計監査より監査を受け，承認された。

平成4年度予算案（別紙）が支部長より報告
され，討議の結果一部修正された後承認され
た。

5. その他

第10回評議員会議事録の承認。



日本細菌学会
関東支部ニュース
第16号
(1992.1.31)

発行：日本細菌学会関東支部
〒141 東京都品川区上大崎2-10-35
国立予防衛生研究所
☎03-3444-2181
